〈表現〉

イメージを動きや言葉で表現できる子を育てる援助の工夫
―劇遊びから劇創りを通して―

沖縄市立美里幼稚園　教諭　仲　田　幸　世

Ⅰ　テーマ設定の理由

幼児を取り巻く環境は少子化，核家族化，共働き世帯の増加により，家族間のコミュニケーション不足は大きな問題となっている。また，友達と一緒に遊ぶ経験や人とかかわる経験が少なくなり，自己中心的な思考から相手の立場に立った思考を育てていく機会も少なくなってきている。このような実情の中，幼児が自分の思いや考えを話したり，自分で考え自分で行動したりする経験を重ねることが幼児期の発達において大切なことであり，生きる力の基礎となると考える。

幼稚園教育要領によると，「感性と表現に関する領域『表現』」の内容（８）では，「自分のイメージを動きや言葉などで表現したり，演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう」と示されている。幼児は生活の中で，周囲の環境とかかわりながら，不思議さや面白さなどを見付け，心を動かされる体験を重ねること，自分の思いや考え，イメージしたことを豊かに表現する楽しさを味わわせることが求められている。

本園の幼児は，明るく活発な子が多い。また，友達とのかかわりの中で，自分の思いや考えを出し合い活動を進める子もいる。一方，物事に対して受け身的であったり，自分の思いをうまく表現できずに友達とトラブルになったり，教師に助けを求める姿も見られる。

これまでの保育を振り返ると，幼児が安心して自己発揮できるような雰囲気づくりを心がけてきた。しかし，教師が活動の道筋を誘導した指示も多く，幼児の思いを受け止めた援助ができていただろうかと反省する。このことから，幼児が表現する意欲を十分に発揮できるように，自己表現を楽しむことができる援助の見直しが必要であると考える。その具体的な援助の手立てとして，劇遊びを取り入れる。

劇遊びの中で，教師が絵本やペープサートを活用することで，様々な登場人物との出会いに胸を踊らせ，イメージを膨らませる経験を重ねる中で，教師が思いや考えを引き出すような発問の工夫も考えていきたい。また，劇をつくる過程において，イメージを共有する経験の充実を図ることで，表現する意欲が高まり，自分のイメージを豊かにする感性が育っていくのではないか。さらに，学級や少人数グループでの活動の中で，友達と伝え合うことのできる援助を工夫することで，友達と思いや考えを共有し動きや言葉で表現することを楽しめる子が育つであろうと考える。

本研究では，劇遊びという友達とのかかわりの中で，教師が意図をもって，思いを伝えたり，相談したり，気持ちの折り合いを付ける場面を設定し，一つの目的に向かって活動を進めていく。その過程を通して，イメージを動きや言葉で表現できる子が育つであろうと考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　目指す幼児像

１　自分なりに表現することを楽しめる子
２　友達と思いや考えを共有し表現することを楽しめる子

Ⅲ　研究目標

イメージを動きや言葉で表現できる子を育成するために，劇遊びから劇創りの過程を通して，自分らしい表現を楽しんだり友達と思いや考えを共有し表現したりできる援助の在り方を探る。

Ⅳ　研究仮説

１　基本仮説

劇をつくる過程において，友達と思いを伝え合う楽しさを味わい，イメージを共有する経験の充実を図ることで，表現する意欲が高まり，イメージを動きや言葉で表現できる子が育つであろう。

２　具体仮説

(1)　劇遊びの場において，絵本やペープサートを活用し，友達や教師とイメージを膨らませる過程の中で，教師が思いや考えを引き出すような発問をすることで，自分なりの動きや言葉で表現することを楽しめる子が育つであろう。

(2)　劇創りの場において，学級や少人数グループでの活動の中で，友達と伝え合うことのできる援助を工夫することで，友達と思いや考えを共有し動きや言葉で表現することを楽しめる子が育つであろう。

３　検証計画

事前に聞き取り調査（１回目）を行い，一人一人の幼児理解と学級の実態把握を行う。その後，学級経営におけるイメージを動きや言葉で表現できる子を育てるという視点において，指導計画の工夫における理論研究，教材研究を進める。

検証保育の段階では，自分なりの動きや言葉で表現できる子を育てるという視点で指導計画の工夫は効果的であったか，幼児の発言，幼児の発表を分析し，友達と思いや考えを共有し動きや言葉で表現できる子を育成することにつながっているのかを考察する。

事後調査では，幼児の変容を見るために聞き取り調査（２回目）を実施し，事前の聞き取り調査との比較を行い，本研究の成果と課題を追及する。

Ⅴ　研究構想図

次ページ参照

Ⅵ　理論研究

１　「表現」の捉えについて

(1)　表出とは

表出とは，「感情や情緒などの心的過程が，生理的・身体的変化によって表されたもの」（「保育用語辞典」監修　谷田貝　公昭　一藝社）と定義されている。

赤ちゃんが空腹により泣いたり，紙オムツを取り替えたときの心地よさで笑ったりするのは，生理的な感覚がそのまま身体の動きとなった無意図的な表れである。これらの，快，不快の表出を受け止めてくれる周りの大人のかかわりによって，外部へと表す表現能力の基盤がつくられていくと考える。

(2)　表現とは

学校教育法における幼稚園教育の目標の一つに，「音楽，身体による表現，造形等に親しむことを通じて，豊かな感性と表現力の芽生えを養うこと」（第２３条第５号）が示されている。この目標の実現のために，幼稚園教育要領の中でも，領域「表現」の内容の取扱い（３）に「生活経験や発達に応じ，自ら様々な表現を楽しみ，表現する意欲を十分に発揮させることができるように，遊具や用具などを整えたり，他の幼児の表現に触れられるよう配慮したりし，表現する過程を大切にして自己表現を楽しめるように工夫すること」とも示されている。

一人一人の幼児の発達理解に努め，いろいろな表現を楽しめるように，意欲を十分に発揮できるような環境を整え，互いの活動を見たり聞いたりして相手の表現を感じ取ることができる態度を育てていくことが大切であると考える。

以上のことを踏まえて，本研究では，幼児が様々な表現を楽しめる体験を取り入れることで，表現したいという意欲を引き出していきながら保育を展開していく。そこで，絵本やペープサートを活用し，幼児の頭の中のイメージを広げ，自分の思いや考えを表現したり，友達と思いや考えを共有し表現したりすることを楽しめる援助の工夫を行っていく。

Ⅴ　研究構想図

社会的背景
・少子化，核家族化，共働き世帯の増加　・家族間のコミュニケーション不足・人とかかわる経験が減少

文部科学省
・幼稚園教育要領解説

県教育施策
・環境を通して行う教育の充実
・遊びを通した総合的な指導の充実
・基本的な生活習慣の形成

市教育施策
・小学校以降の生活や学習の基盤の育成
・生きる力の基盤を培い，一人一人のよさと可能性をのばす

園教育目標
・なかよくできる子
・がんばる子
・じしんのある子

幼児の実態
・明るく活発な子が多いが，自分の思いを表現することが苦手な子もいる

教師の実態
・幼児が安心して自己発揮できるような雰囲気づくりに努める
・活動の道筋を誘導した指示が多く，幼児の思いを受け止め，自己表現を楽しむことができる援助の見直しが必要である

目指す幼児像
・自分なりに表現することを楽しめる子
・友達と思いや考えを共有し表現することを楽しめる子

研究テーマ
イメージを動きや言葉で表現できる子を育てる援助の工夫
―劇遊びから劇創りを通して―

研究目標
イメージを動きや言葉で表現できる子を育成するために，劇遊びから劇づくりの過程を通して，自分らしい表現を楽しんだり友達と思いや考えを共有し表現したりできる援助の在り方を探る。

基本仮説
劇をつくる過程において，友達と思いを伝え合う楽しさを味わい，イメージを共有する経験の充実を図ることで，表現する意欲が高まり，イメージを動きや言葉で表現できる子が育つであろう。

具体仮説１	具体仮説２
劇遊びの場において，絵本やペープサートを活用し，友達や教師とイメージを膨らませる過程の中で，教師が思いや考えを引き出すような発問をすることで，自分なりの動きや言葉で表現することを楽しめる子が育つであろう。	劇創りの場において，学級や少人数グループでの活動の中で，友達と伝え合うことのできる援助を工夫することで，友達と思いや考えを共有し動きや言葉で表現することを楽しめる子が育つであろう。

研究内容

理論研究	指導計画	保育実践
・幼稚園教育要領「表現」の捉え ・イメージについて ・ごっこ遊び・劇遊び・劇創りについて ・教師の援助について	・幼児実態把握 （聞き取り調査） ・指導計画作成	・環境構成の工夫 ・幼児の実態に応じた援助の工夫 ・劇創りを通して，思いを伝え合う援助の工夫

指導の実際 → **研究の結果と考察・研究成果と今後の課題**

(3)　表現の発達段階について

表現の発達段階について，佐々木聰子（2005）が述べていることを図１で表した。

新生児の表出は，無意図的で一方的であり，その表出を周囲の大人がしっかりと受け止めていくことが大切である。表出を受け入れられた心地よさを感じることが，外部へ，自分の思いを表現していくことへつながっていると考える。乳児前半から幼児期にかけての表現も十分なものではないので，周りの大人が表現するための手がかりを探していくことが重要である。

幼児が自分の思いや考えを表現できるように，一人一人の発達段階の特徴をおさえ，表現したい意欲を十分に発揮することができるような援助を見直していく。

図１　新生児期から幼児期の表現の流れ

(4)　言葉での表現について

保育所保育指針と幼稚園教育要領を参考に，２歳から６歳までの言葉の発達の姿とその構造や機能の変化を表１で表す。

５歳，６歳になると大人と同様な会話をして，相手の話しを聞く力も発達してくる。また，文字にも興味をもち始め，読める文字を書くというところまで関心をよせている。教師は，自分の気持ちを相手に言葉で伝えたり，相手の気もちに気付いたりできるような環境づくりをすることが重要である。

表１　幼児期の言葉の発達のめやす（２～６歳）

年齢	人との関係	言葉と知性の発達
2歳ころ	・友達に関心を示す ・自分でやろうとする（反抗期が始まる）	・２語文・３語文を話す（パパ，カイシャ，イッタ） ・自分の名前を言う（～ちゃん）
3歳ころ	・友達遊びを喜ぶ ・友達とのけんかが多い	・自分の姓名を言う ・「ボク」「ワタシ」と言う
4歳ころ	・「見て」「聞いて」と自己主張をする ・自制心ができ，泣かなくなる	・経験したことをよく話す ・考えたことをしゃべりたがる
5歳ころ	・他人の気持ちを思いやることができる ・競争心や自尊心が現れる	・思い出して絵を描く ・「なぜ」「どうして」と質問する ・文字に関心をもつ
6歳ころ	・相手の気持ちになって行動できる ・欲しいものでも我慢ができる	・前後・左右が分かる ・ひらがなの自分の名前の読み書きをする

(5)　役割遊び活動について，田川　浩三（2004）を参考にまとめた。

①　役割認識について

「幼児は役割遊びを通して，先生とは何をする人か，お母さんは，お父さんは，お医者さんは，看護師さんは，それぞれ何をするかという，社会の約束事，役割の中味を勉強します。これが役割認識です。」と述べている。

ごっこ遊びの中で，いろいろな人や動物になりきり，「そのつもり」を合言葉になったつもり遊びを展開させていく。劇遊びの中で劇に登場する役をみんなで決め，それぞれの役の得意なことについて話し合い，具体的にどんなことをするのか考え，ごっこ遊びを進めていく。

また，役割を決め少人数のグループの分かれ，劇の内容やセリフ，動き，ダンスなどを話し合うことで自分の意見を主張したり，相手の思いに気付いたり，時には気持ちに折り合いを付けることも学ぶであろう。そういう経験を繰り返すことで，自分の役割を理解し友達と一緒に演技する役割表現へとつなげていけると考える。

②　役割表現について

「認識した役割の内容を表現することです。そして，認識→表現というパターンで遊びます。すると，いろいろな矛盾にぶつかります。そうすると，注意して観察したり，考えたりしてさらに認識が深まります。深まった認識はよりそれらしい表現を生みます。」と述べている。

教師が，それぞれの役で役割をロールプレイさせて幼児を動かせていくことで，イメージを身体で感じて膨らませていくことができると考える。そこで，認識したものがうまく表現できない場面もでてくるであろう。アイディアをどのように表現するのか，困ったことをどんな方法で解決していくのか，みんなで考えていく過程を大切にしていく。

2　イメージについて

(1)　イメージとは

イメージについて，神谷栄司（1999）は，「日本語では『像』のことで，いわば，頭のなかでつくられる『絵』であり，それはイマジネーション（想像）の産物であるというのが，一般的な定義でしょう。イメージは自分の過去の記憶のなかからつくられていくと考えられるのです。過去の記憶は，その人の現実の経験（直接的な経験の場合もあれば，間接的な経験の場合もある）から生まれたものです。」と述べている。

今回の劇創りの段階で，みんなで話し合い，劇の話をつくり上げていく。幼児が直接経験したことや，一人一人のイメージをつなげて話づくりへと発展させていきたい。そして，できあがった話を紙芝居にして読み聞かせを行い，学級に掲示していく。そのことで，視覚から入る絵のイメージを友達と共有し演技することができるのではないかと考える。

(2)　表現遊びのイメージについて

「からだや動きで表現する遊びについては，動きとイメージは相互にかかわりあっているものです。すなわち，動くことによってイメージが膨らみ，イメージが深まることで，新たな動きが生まれていきます。子どもたちがイメージの世界にいるとき，イメージを共有できた保育者の魔法の一言によって，子どもたちの頭や心の中に新たなイメージが溢れ出し，活動が一気に展開していきます。イメージを展開していく場合，動きの対立要素（大きい一小さい・早い一遅い・重い一軽い）を考慮して，同じ質感の動きが続かないように注意しましょう。」と本山　益子（2009）は述べている。

幼児が頭の中でイメージしたことを動かす活動につなげて，イメージを広げたり深めたりしていきたい。そして，魔法の一言として，荒井　良二の絵本「そのつもり」を読み聞かせし，〇〇〇になったつもり遊びを基に，劇遊びを展開させていきたい。つもり遊びの中で，幼児の動きを捉え，動きの対立要素を身体で感じて表現することができるような言葉かけをしたり，イメージしたものを形で表し表現できるような材料を整えたりしていく。そこで，幼児の頭の中で膨らんだイメージを，様々な表現の素材や方法で経験させることが大切であると考える。

図２　読み聞かせ絵本
作：荒井良二

図３　そのつもり表
（幼児が作成）

図４　声の階段表
（声の大きさを調節）

3　ごっこ遊び・劇遊び・劇創りについて

(1)　ごっこ遊び・劇遊びの発達段階について

「子どもの想像遊び能力は，一般に，身体・運動能力・精神の発達段階の特徴上に立って形成されています。」と田川浩三（2004）は述べている。

年齢が同じ幼児でも，一人一人の発達は異なるので，個々の発達を理解し，個に合った援助をしていくことが重要であると考える。

表２　ごっこ遊び・劇遊びの発達段階表（田川浩三　試案）一部削除

	Ⅰ（３歳）	Ⅱ（４歳）	Ⅲ（５歳）
主導的活動	身ぶり遊び，ごっこ遊び	ごっこ遊び，劇遊び	ごっこ遊び，劇遊び 劇づくり
はじまり	発想が突然ひらめく	一人の発想を皆が受入れ	集団で相談して始める
題　　材	印象強いもの	少し難しいもの	難しいもの
素　　材	そこにあるもので適当な使い方のできるもの	題材に合うもの	目的に合わせて工夫，加工できるもの
保育者の働きかけ	保育者が誘導 発表会－子どもといっしょ（保育者脇役）	保育者が援助 発表会－保育者が進行役で子どもだけ	劇づくりなら保育者が演出を援助 発表会－すべて子どもだけで

５歳児は，目的に合わせて工夫をしたり，リアルな表現にも努力したりできるので，集団とのかかわりの中での一人一人が自分らしい表現を楽しむことができるように援助の在り方を考えていく。

また，話し合いを多くもち，よかったところや，もっとこうしたらいいなど目標を決めて次の活動に期待をもって取り組めるようにしていく。

役割認識	役の外形的行動は理解	役の内容が解りはじめる	役の内面と心情が解る
役割表現	「らしく」「なりきる」の中間	それらしく表現することに努力するが，自分の性格がまざる	リアルな表現に努力自分以外の性格も演じることができる
役割取得（配役）	自己中心的に，なりたい役がはっきりとする	相手とのかかわりで，なりたい役でなくても努力する	集団の中で自分を生かそうと努力する役割－立候補，集団で決定
虚構性	保育者の狼に迫力があるとこわがる	こわい狼でないと面白くない	全員でうそっこを本気のように演じることが楽しい
イメージの共有	保育者の誘導であいまいながらイメージの共有ができはじめる	イメージの言語化ができ，保育者の援助でイメージを共有する	イメージの言語化が巧みになり，集団の話し合いでイメージをふくらませる
集団の様子とトラブル	自分のやりたい行動が阻止された時，トラブル	役の約束や妥当性をめぐってトラブル	役の演技の内容をめぐって相互批判
効果的な材料	お店屋ごっこ，乗物ごっこ，お父さんお母さんごっこ，保育者誘導のスーパーマン遊び	お話遊び，人形劇遊び保育者が相手役をするストーリーの起伏のある即興劇遊びなど	本物に近い市場ごっこスリルのある探検ごっこ複雑なお話劇遊び，寸劇クラス全体での劇づくり

(2) ごっこ遊びから劇創りまでの流れについて

ごっこ遊び・劇遊び・劇創りについて図２のようにまとめる。

今回の検証保育では，初めに絵本の読み聞かせを行い，幼児のイメージを引き出し，ごっこ遊びへとつなげていきたい。一人一人の幼児が役になりきり，つもり遊びを十分に楽しむことができるようにしていく。

そこで，自分以外の役になることで，相手の気持ちも考えて行動することができるように，相手の気持ちに気付くことができる場のもち方や援助の工夫を考えていきたい。

友達と活動を進めていく中で，思いや考えを共有する楽しさを味わい，表現していく活動の充実を図っていきたい。

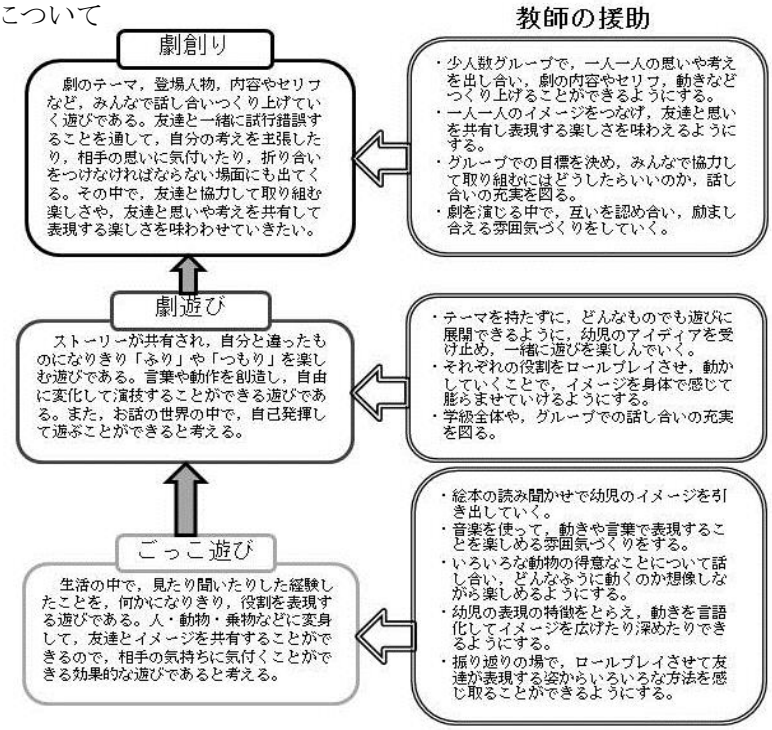


図５　ごっこ遊びから劇創りまでの流れ

４　教師の援助について

(1) 援助とは

「幼児が環境にかかわって興味や関心をもちながら生み出していく活動を豊かにしていく支えやその中で一人一人の体験が幼児の成長･発達を促すようにする保育者の保育活動を総称して『援助』という」と後藤節美（2009）は述べている。教師は，一人一人の幼児の成長・発達を促すことができるように幼児理解に努めていくことが大切であると考える。また，一人一人の幼児を受け止めることができるように，成長や変化を記録していくことも大切である。

(2) 話を聞く態度について

集まりの場で，話し合う活動を多く設定していく。そして，自分の思いを発表したり友達が発表しているのを見たり聞いたりし，互いの気持ちに気付いていけるように繰り返し話し合う。

また，「聞き名人表」を学級に掲示し，話を聞く態度，話す態度について確認し，話し合いの基盤づくりをしていく。

そこで，いろいろなレイアウトを使った話し合い活動へとつなげていく。

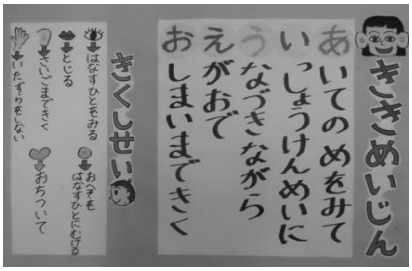


図６　聞き名人表

(3) 発表しない子への指導について

発表しない子への指導として，加藤辰雄（2010）以下の３点が重要であると述べている。

① やさしい発問をして答えさせ，自信をもたせる
② 発表できたことをほめる
③ 周りの子どもが励ましの声をかける

発表しない子への配慮として，教師はやさしい発問をして，発表しない子が自信をもって手を挙げ，発言できる場面をつくっていく。そこで大事なことは，どのような答えであっても，発表できたことをほめていくことである。一人一人の頑張りを認める声をかけたり，発表後には拍手をしたりして互いを認め合える集団づくりをしていきたい。また，発表できずに困っている子がいる場面でも，一人一人が安心して発言できるように，周りの友達から励ましの声をかけてあげることができるような環境を整えていく。

(4) 話し合い活動のファシリテーション技術について

ファシリテーション技術を，菊池省三（2013）を参考に表３にまとめた。

表３　座席をレイアウトするための技術

座席レイアウト写真	教師の手立て	今回の検証保育では
 写真１　スクール式レイアウト	レクチャー（講義）での座席レイアウトである。 基本の一斉前向きのスクール式レイアウトである。 子どもたちに一定の知識を伝えたり，モデル（見本）を見せて理解させたりするときには，このレイアウトが普通である。子どもたちは必要なことを吸収したり真似したりして自分のものにしていくことができる。	今回の検証保育では，導入のレイアウトとして取り組んでいく。 幼稚園では椅子と机を使わず床に座る形になるが，全員が同じ目的をもって活動を進めていくには，効果的であると考える。 後ろの幼児にも教師が見守っていると感じることができるよう，Wの目線を心掛ける。
 写真２　アイランド式レイアウト	活動をともなうワークショップ（協働）での座席レイアウトである。 ワークショップでよく行う，話し合う，体験する，創作するときによく使われるレイアウトである。 最適な人数は四人であると言われている。他のレイアウトよりも自由度が高く，多様な考えを交流できる。	遊びの中の展開の場面で取り入れていく。 グループに分かれ，自分の思いを伝えたり，相手の思いに気付いたり，時には心の折り合いを付けることができるような援助を工夫していきたい。 また，自由にレイアウトを変えていけるように配慮することで，多くのアイディアが出てくることを期待する。
 写真３　サークル式レイアウト	ふり返りのリフレクション（省察）の時によく使われるのが，サークル型レイアウトである。 子ども同士が互いに向き合って，顔を見せ合うことができる座席レイアウトである。 全員で大きな一つの円になる場合（サークル型レイアウト）と，少人数で小さな円を作る場合（バス型レイアウト）とを使い分けるといだろう。 感じたこと，思ったことを共有したり，ふり返ったり，深めたり	遊びのまとめの場面で取り入れていきたい。 友達や教師の表情やしぐさから思いを感じ取ることもできるのではないか。 そこで，ロールプレイを取り入れる。全体の場で，自分が演じて発表したり，友達が発表するのを見たり聞いたりする。その中で，相手の思いに気付き，みんなの考えを出し合って伝え合う活動の充実を図る。 仲間と感じたことや思った

	するときに効果的である。	ことを共有し，次回の活動に期待をもって取り組めるようにする。

Ⅶ　研究実践（公開検証保育指導案）

日時　平成２５年度１２月５日（木）
時間　9時３０分～１０時３０分
学級　沖縄市立美里幼稚園　３組
男児　１８名　女児　１６名　計３４名
保育者　仲田　幸世

１　活動名

「みんなで協力して劇創りをしよう」

２　活動の目標

(1)　自分なりの動きや言葉で表現することができる。[自己表現]
(2)　友達と思いを伝え合いながら，イメージを表現することができる。[役割表現]

３　活動について

(1)　教材観

劇遊びは，絵本やお話の中でストーリーを基盤として想像の世界で「ふり」「つもり」を楽しむ遊びで，ごっこ遊びをもとにつくられた遊びである。劇遊びが成り立つためには，遊ぶ者同士でストーリーが共有されていることが前提となる。また，その役の立場に立って自ら考え行動し，発言していくので，その子なりの表現力，思考力や理解力を育てていく経験の場になる。

園生活を過ごす中で，経験してきたことを劇の内容に取り入れることにより，より思いや考えを共有することができるのではないか。その経験を基に，こうなったらいいなというイメージを膨らませていくことで，表現したい意欲が高まっていく。そこで，イメージを共有し思いを伝え合うことが重要となるので，自己主張の強い幼児が気持ちの折り合いをうまく付けられるように援助していくと効果的である。共通の目的に向かって，仲間と協力して一緒に表現する楽しさを味わうことができる教材であると考える。

(2)　幼児観

学級の幼児は，明るく活発で何事にも積極的にかかわる子が多い。お祭りごっこやミニ運動会を経験して，学級や幼稚園で共通の目標をもって取り組んできたことが自信となり，運動遊びへの意欲とつながっている。しかし，友達とのかかわりの中で，自分の思いだけ主張して相手の気持ちに気付かず最後まで話を聞けない子もいる。また，自分の思いを相手に伝えることが難しく，自己主張の強い子の意見へと流され，受け身的になってしまう子も数名いる。

劇遊びという友達とのかかわりの中で，教師が意図をもって，思いを伝えたり，相談したり，折り合いを付ける場面を設定し，一つの目的に向かって活動を進めていく。そこで，自分の思いや考えを表現することや，友達と思いを伝え合い，イメージを共有し表現する楽しさを味わわせたい。

(3)　指導観

発表会に向けての劇遊びでは，絵本の読み聞かせや，秋の遠足で動物との直接経験で得たものからイメージを膨らませ，動物になりきり，自分なりの表現を楽しむことができる場の設定や雰囲気づくりを心掛けていく。また，絵本の言葉から「そのつもり」を合言葉に，つもり遊びを展開させていきたい。そして，子ども自身から生まれた表現を大切に受け止めていく。その中で，子どもの表現の特徴を拾い上げ，それを言語化していくことによって，自分のやり方でいいのだと自信をもって表現することができるであろうと考える。

劇創りでは，学級で目的を共有していきながら，仲間と考えを出し合い，思いを伝えたり，相談したり，気持ちの折り合いを付けていきながら楽しく活動できるように見守っていく。そして，一つの目的に向かって試行錯誤し,仲間と力を合わせてつくり上げていく中で,友達のよさに気付き,相手を認め合い，励まし合える経験を重ねていけるようにしていきたい。

４　本研究とのかかわり

本研究で考える「イメージを動きや言葉で表現できる」ようになるには，園生活の中で心動かされる出来事に触れ，自分なりの表現する楽しさを十分に味わい，友達と思いや考えを共有する過程が大切であると考える。それを育てていくために，劇遊びから劇創りの過程の中で，自分の役になりきったものとなり表現する楽しさを味わわせる。そして，学級やグループでの友達とのかかわり合いでの

中で，思いを伝えたり，相談したり，気持ちの折り合いを付ける場面を設定し，一つの目的に向かって活動を進めていくことが必要であると考える。

５　活動の評価規準

	◎幼児の発達する姿	☆教師の援助
A	◎友達と思いを伝え合いながら，イメージを共有し表現することを楽しんでいる。	☆幼児の表現したい気持ちを大切にし，認めたりほめたりして意欲を引き出す援助をする。
B	◎自分の思いを相手に伝え，相手の思いを受け入れようとしながら活動を進めている。 ◎友達と主張のぶつかり合いになっても，気持ちに折り合いを付けようとしている。	☆自分と意見が違う友達の存在に気付き，気持ちに折り合いを付けようとする姿を受け止め，必要に応じて援助していく。
C	◎自分の思いを友達に伝えることはできるが，友達の思いを受け入れることが難しい。 ◎話し合いの場や友達と意見が違いトラブルになった時，自分の気持ちを伝えることが難しい。	☆寄り添い，思いを受け止め，友達の思いに気付き，自分の心の調節ができるような援助をしていく。 ☆思いを引き出し，自分の思いを相手に言葉で伝えることの大切さに気付かせていく。

※　折り合いを付けるとは，幼児が主張し合う中で，互いの気持ちを伝え合い，納得して立て直しをすることである。

６　活動の指導計画

「ごっこ遊び・劇遊び・劇創り」という段階で計画を立てる。

回	活動	☆ねらい　○内容	◎教師の援助・△環境構成
1	①　動物ごっこをする。 ・手遊びをする ・絵本を見る。 (ぼくんちどうぶつえん) ・BGM を聞く ・動物になって，表現することを楽しむ。 ②　活動を振り返る。	☆自分のイメージを膨らませ，動物に興味をもち，表現する楽しさを味わう。 ○BGM を聞いて想像を膨らませる。 ○自分の思いを伝えたり，友達の思いを聞いたりし，イメージを表現することを楽しむ。	◎絵本の読み聞かせでイメージを広げていく。 △ジャングルの BGM を聞かせ，個々のイメージを膨らませていく。 ◎教師も一緒にダイナミックに表現することを楽しみ，幼児の動きを言語化する。 ◎何の動物がいるのか，何をしているところなのか発問し，意欲を引き出していく。 ◎リズム遊びを取り入れ，友達と同じ動きや動物の鳴きまねをして表現することを楽しめるようにしていく。
2	①　広場づくりをする。 ・絵本を見る。 (そのつもり) ・しっぽや草花，必要なものをつくる。 ②　活動を振り返る。 ・つくったものを紹介する。 ・楽しかったことや困ったことを伝え合う。	☆友達や教師と考えを出し合いながら，試したり工夫したりしながらつくることを楽しむ。 ○広場に必要なものを友達や教師と工夫してつくる。 ○考えたことや思ったことを友達に伝え，友達の思いも聞いたりし協力してつくる。 ○友達とつくったものを見せ合ったり，つくったもので表現遊びを楽しんだりする。	◎読み聞かせで，想像する楽しさを味わわせる。 ◎個々の考えを引き出し，みんなで広場の名前を決め，広場のイメージを図にする。 △イメージが形にできるような材料を準備する。 ◎友達と協力して製作している姿を認め，他児への刺激となるようにする。 △絵本や図鑑コーナーをつくり，戸惑っている子が興味をもつことができる環境を設定する。 ◎秋の遠足までカウントし期待をもたせる。
3 ・ 4	①　動物ごっこをする。 ・友達と動物になって，表現することを楽しむ。 ・音楽に合わせて，動物の表現をする。 ②　活動を振り返る。 ・楽しかったことや困ったことを伝え合う。 ・ロールプレイしたり，見たりする。	☆友達や教師とイメージを共有し，動物になりきって表現遊びを楽しむ。 ○イメージを膨らませ，自分なりの表現を楽しむ。 ○仲間と動きを合わせたり，鳴き声をまねしたり，表現することを楽しむ。 ○友達と一緒に楽しく遊ぶ中で，友達のよさに気付く。	◎ペープサートで素話をして，表現したくなる雰囲気づくりをする。 ◎イメージを共有して遊ぶ楽しさを味わえるように，みんなで表現して踊るリズム遊びを意図的に取り入れる。 ◎個々の表現を他児に紹介したりほめたりし，友達のよさに気付かせていく。 ◎秋の遠足で，動物の姿を見たり，触れたり，鳴き声を聞いたり，匂いをしたり，親しみをもってかかわれるように話し合う。
5 ・ 6	①　劇遊び・劇創りをする。 ・劇の題名や内容を考える。 ・登場してくる役を考える。 ・グループに分かれる。 ・セリフや踊りを考える。 ・演技を見せ合う。 ②　活動を振り返る。 ・互いのよさに気付く。 ・楽しかったことや困ったことを伝え合う。	☆グループの仲間と協力して，劇遊び・劇創りの楽しさを共感し合う。 ○遠足で経験したことを話し合い，イメージを共感し伝え合う楽しさを味わう。 ○仲間と，アイディアや思いを出し合い，思いを共有しながら劇の内容を考える。 ○劇に登場してくる役を決め，自分のやりたい役を選ぶ。 ○グループの仲間と，一緒に協力して取り組む目標を決める。	◎遠足で経験したことを振り返り，楽しかったことを伝え合い，物語づくりへとつなげていく。 ◎互いの考えをつなげていけるような発問をして，協力してつくり上げる楽しさを味わわせる。 ◎イメージや思いを引き出し，大まかな流れを決め，遊びの中で修正できるようにする。 ◎役決めは，幼児の主張も受け止め，役に対するイメージを話し合い，自分達で考えて解決できるような援助をしていく。

7 ・ 8	①　劇遊び・劇創りをする。 ・グループに分かれ，目標を決める。 ・友達と相談して物語をつくり上げていく。 ・セリフや踊りを考える。 ・演技を見せ合う。 ②　活動を振り返る。 ・互いのよさを伝え合う。 ・楽しかったことや困ったことを伝え合う。	☆グループの仲間と積極的にかかわり，思いを共感する楽しさを味わう。 ○グループの目標を決め，グループで協力して取り組めるようにする。 ○みんなで物語の内容を考え，演技をしたり考えを出し合い修正したりする。 ○協力して演技することを楽しむ。 ○友達と同じ動きをしたりセリフを言ったりする。 ○演じる姿をグループで見せ合う。	◎幼児が自由に表現できる場面をつくり，意図的な発問をしてセリフや動きを自分達で考えてつくり上げられるようにする。 ◎協力することの必要な場面を設定し，仲間とやり遂げる喜びを味わえるようにしていく。 ◎互いに主張する中で，思いを伝え合いながら折り合いの気持ちが調節できるように見守っていく。 ◎互いのよさを認め合える発表の場を設定する。
9 ～ 13 公 開 検 証 保 育 ・ 14	①　劇遊び・劇創りをする。 ・グループでセリフや踊りの練習に取り組む。 ・劇に必要な物をつくる。 ・自分の役になりきり演技の練習をする。 ②　活動を振り返る。 ・互いのよさを伝え合う。 ・楽しかったことや困ったことを伝え合う。 ・ロールプレイをして演技したり，友達の演技を見たりする。	☆イメージを膨らませ，仲間と協力して劇遊び・劇創りをする楽しさを味わう。 ○自分の思いを相手に伝えたり，相手の思いを受け入れたり，みんなで相談して遊びを進める。 ○衣装や必要な用具を友達と試行錯誤しながら協力してつくる。 ○イメージを共有する中で，友達との考えの違いに気付き葛藤する。 ○自分の思い通りにいかない場面で，気持ちの折り合いを付け調節をする。 ○仲間と協力することの大切さに気付き，考えて行動する。	◎友達とのかかわりの中で，互いの考え方や思いが違っていることに気付き，よさを認め合える場面をつくる。 △小道具を自分達で考えてつくることができるように材料を準備する。 ◎自分達で考えて，小道具を出したり片付けたりできるように気付かせていく。 ◎困っている場面で，「みんなならどうする？」と発問し，じっくりと話し合う。 ◎自分の思いを主張し合い，折り合いを付けて自分たちで解決できるように，思いを引き出したりつなげたりし，方向付けていく。 ◎友達と思いや考えを共有し表現することを楽しめるような場面をつくる。 ◎振り返りの場でロールプレイをさせて，互いの気持ちに気付かせていく。
15 ・ 16	①　繰り返し演じる。 ・観客の前で演じる。 ・演技を見せ合う。 ②　劇に必要な物をつくる。 ・必要な物をつくったり，手直しをしたりする。 ③　劇を振り返る。 ・感想や反省を発表する。 ・発表会に向けての気持ちを伝え合う。	☆発表会に向けて，協力して演じる楽しさを味わう。 ○観客側の立場になって，演じ方や立ち位置などを調節していく。 ○観客の前で，みんなで演じる楽しさを味わう。 ○小道具や衣装をつくったり，手直ししたりする。 ○友達と思いを伝え合い，互いのよさを認め合う。	◎仲間と協力して演じている姿をほめ，一緒に演じる楽しさが味わえるようにする。 ◎演技している姿で，よいところを具体的にほめ，意欲を引き出し自信へとつなげていく。 ◎自分の気持ちを調節しながら練習に取り組む姿を認めていく。 ◎発表会を楽しみにしている気持ちや，緊張して不安になっている気持ちを受け止める。
17	①　生活発表会をする。 ・劇を披露する。 ②　生活発表会を振り返る。 ・発表したり，感想を聞いたりする。 ・保護者からの感想を聞く。 ・最後までやり遂げた喜びを共感する。	☆仲間と協力して劇をやりとげた，達成感や満足感を味わう。 ○セリフを忘れても，みんなで助け合い，最後までやり遂げる。 ○自分の役になりきり，自信をもって表現する。 ○仲間と劇を最後までやり遂げ，成功した喜びを味わう。	◎一人一人の緊張をほぐし励ましていく。 ◎仲間と力を合わせて，自信をもって演じることができるような言葉かけをしていく。 ◎そのつもりになりきり演技できるように見守り，必要に応じて援助する。 ◎保護者も一緒に振り返り，一緒に成長を喜び自信へとつなげていく。

7　検証前保育の実践

検証保育 1～4 の過程

ごっこ遊びをする

写真 4　絵本の読み聞かせ

写真 5　身体で表現遊び

写真 6　振り返りの場にて
つくったものを紹介

写真 7　アイディアを図にする

写真 8　サルの
しっぽとお尻

写真 9　ブランコ
づくりで試行錯誤

写真 10　振り返りの場にて
サルでロールプレイ

考察

絵本やペープサートを活用し，イメージを膨らませたり，思いや考えを引き出すような発問をしたりすることで，いつもは自分の思いを伝えることが苦手な子も，自分なりに表現したり自分の思いを教師や友達に伝えようとしたりする姿が見られるようになってきた。イメージを図で表していくと，いろいろなアイディアが出てきた。そこで，イメージを自分なりの表現で楽しむことができるように，いろいろな素材をそろえ，友達と協力して取り組める環境を整えた。その結果，を友達と協力してイメージしたものをつくり，それを使ってごっこ遊びが発展していった。ごっこ遊びでは，その子なりの表現を受け止め，素直に表すことや個々の表現に共感できるような言葉かけをしながら認め合える学級づくりを心掛けた。また，遊びの展開の中で，動きを言語化してイメージを膨らませていけるような援助をしたことで，自分と違ったものになりきり，思いきり身体を動かして表現することを楽しむことができたのではないかと考えられる。

検証保育 5～12 の過程

劇遊び・劇創りをする

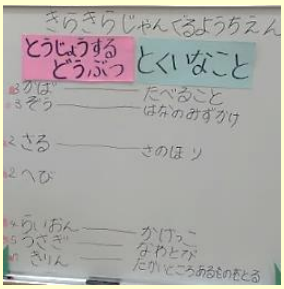


図 7　学級での話し合い

写真 11　目標を発表

写真 12　うさぎグループ
セリフについての話し合い

写真 13　振り返りの場で
ロールプレイ

写真 14　ポーズを合わせて

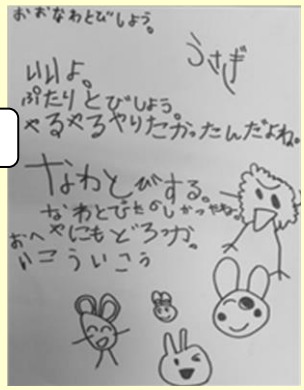


図 8　うさぎグループのセリフ

考察

全体の場で，登場してくる動物の得意なことについて，幼児のイメージを聞き取りながら話し合いをもった。そこで，少人数グループでの話し合いの場を設定し，幼児の伝えたいという思いや友達の話を理解したいという気持ちを育てていけるように，心の交流が図られるように工夫していった。その結果，友達の考えに共感したり，友達と考えが違っていても自分の考えを相手に伝えたりすることもできるようになってきた。そこで，思いを共有する楽しさを味わった経験から，相手の気持ちも考えてセリフづくりを進める姿も見られた。（写真 12）　また，ロールプレイをしながら活動を振り返ることで，登場に合った表現の仕方など，友達と思いを共有し，試行錯誤しながら表現することにつながったのではないかと考えられる。

９　公開検証保育の様子

公開検証保育 13

劇遊び・劇創りをする

＜導入＞（写真 15・16）
○教師の話を聞き，どのように表現できたらいいのかみんなで話し合っていく。

写真 15　手遊びで集中

写真 16　ペープサートで演じ方を話し合う

＜展開＞（写真 17～20）
○自分の役になりきり表現することを楽しんだり，友達が表現する姿を見て楽しんだりする。

写真 17　朝の会でグループ出席確認

写真 18　セリフを忘れた子への配慮

写真 19　大縄跳びがうまく跳べず試行錯誤

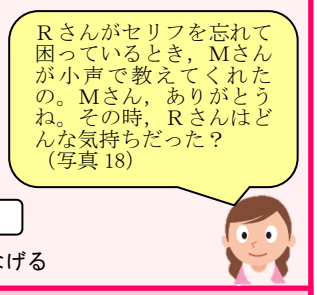
写真 20　重たいバナナを運ぶ様子

＜まとめ＞（写真 21～23）
○自分の思いを伝えたり友達の思いを聞いたりし，思いを共有する。
○ロールプレイをしたり見たりして，どのように表現できたらいいのか話し合う。

写真 21　円座になる

写真 22　解決方法をみんなで考える

写真 23　円陣を明日への活動とつなげる



考察

導入では，ペープサートを活用し，どんなふうに表現したらみんなで楽しい劇ができるのか具体的に話し合っていった。また，ペープサートとの言葉のやり取りで一人一人のイメージをつなげていけるように，思いや考えを引き出すような発問をしていった。「遠くの人にも聞こえるような声でセリフ言う」「みんなで助け合って演技する」という幼児の発言から，活動意欲が高まってきているように感じた。

展開では，一人一人が友達と思いを共有して表現している姿を見守り，困っている場面でもグループの仲間と協力して取り組むことのできるような言葉をかけていった。すると，セリフを忘れているＲ子に気付き，小声で教えてあげる姿も見られた。（写真 18）　友達に教えてもらった嬉しさを感じたＲ子は，セリフを言うときに笑顔が見られた。ほとんどの幼児が，自分の役になりきり表現することを楽しんでいる中，あるグループでは，踊る場面でグループからはみ出すＹ男の姿があった。

まとめでは，今日の活動を振り返り，どんなところを頑張ったのか，困ったときにはどんなふうにしたらいいのか話し合いの場をもった。そこで，「Ｙさんが，踊っているときにはみ出して困りました」という子もいた。（写真 21）　その時の友達の思いをＹ男に伝えると，友達の思いに気付き，謝るＹ男の姿があった。そこで，どうしたらいいのかみんなで考えて，互いの思いを伝え合うことのできる援助をすることで，相手の気持ちに気付き，思いを共有することで次の表現につながることができたと思われる。

10　検証保育後の保育の様子

検証保育 17　生活発表会

劇を披露する

写真 24　朝の会の様子

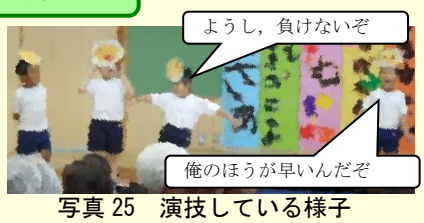


写真 25　演技している様子

写真 26　ダンスを踊っている様子

写真 27　お弁当を食べている様子

写真 28　ナレーターの様子

写真 29　縄飛びを片付けている様子

写真 30　バナナの皮をむいている様子

考察

緊張をほぐしていきながら，劇を楽しむことや友達と協力して最後まで楽しく演じることを話し合い，自信をもって表現できるようにしていった。その結果，一人一人が笑顔で自分の役を演じる姿が見られ，表現意欲を満足させることができたのではないかと思われる。振り返りの場で，最後までみんなで協力して頑張ったことをほめ，喜びや達成感を共有することで自信へとつなげていくことができたと考える。

Ⅷ　仮説の検証

本研究では，ごっこ遊びから劇創りを通して，絵本やペープサートの活用が効果的であったか，また，学級や少人数グループでの話し合いの充実を図り，自分の考えを友達と共有し表現することにつながったかを，幼児の変容や聞き取り調査の結果から検証する。

1　具体仮説(1)の検証

劇遊びの場において，絵本やペープサートを活用し，友達や教師とイメージを膨らませる過程の中で，教師が思いや考えを引き出すような発問をすることで，自分なりの動きや言葉で表現することを楽しめる子が育つであろう。

具体仮説(1)では，「自分なりの動きや言葉で表現することを楽しむ」ことについて，表現している様子，幼児の変容や観察シートの分析などから検証していく。

(1)　絵本やペープサートを活用する

荒井良二の「そのつもり」の絵本を読み聞かせを行い，本山　益子（2009）が述べている，「魔法の一言」を「そのつもり」として，○○○になったつもり遊びを展開させていった。そして，ペープサートを活用しそれぞれの動物の得意なことや鳴き声，動きなど，みんなで話し合っていける場を設定した。すると，自分の思いを言葉で表すことが苦手な子もペープサートとのやり取りで思いを話したり，友達の意見に共感したりする姿も見られるようになってきた。

また，子どもたちから出たアイディアを取り上げて，身体を使ったごっこ遊びへとつなげていくと，友達と動物の鳴き声で会話を楽しんだりする姿が見られた。その中で，「先生，サルってどんな動きするの？」と動物の動きや生体に興味をもち始めるので，自分たちで調べたりできるように，動物の絵本や図鑑コーナーを設

写真 31　ペープサート

写真 32　読み聞かせ

定した。友達と動物について調べていくと，「ライオンは肉食って」「今日はライオンのつもりで弁当食べよう」と自分のイメージを膨らませ園生活の中に取り入れていく姿も見られ，遊びと生活のつながりも感じることができた。

このことから，絵本やペープサートを活用することは，イメージを広げたり思いや考えを引き出したり，活動意欲を高めていくには効果的であったと考えられる。

(2) 思いや考えを引き出すような発問をする

劇創りの中で，みんなが楽しく劇をすることで，見ている人も同じ気持ちにさせたいという話し合いをもった。そこで，全体に大きな発問をする。全体での話し合いでは，自分の考えはもっているものの，自己主張の強い子の意見へと流されてしまう子も出てくることを予想して，菊池省三（2011）のファシリテーション技術を取り入れた。

少人数グループでの話し合いで，一人一人の考えを引き出せるような発問をしていった。すると，全体の場では，一人一人の思いを聞いたりするには厳しいこともあったが，少人数グループだと自分の考えも言える子も多いことから，表現していく活動へつなげていくことができた。

思いや考えを引き出すような発問をすることで，一人一人のイメージを引き出し，身体を使って動く活動へと発展することができたと考える。右にに，発問のやり取りを記述する。

写真 33　スクール式レイアウト

写真 34　アイランド式レイアウト

全体の話し合いの場で

教師「劇をしているとき，どんな気持ち？」**幼児**「楽しい気持ち」**教師**「お客さんを，どんな気持ちにさせたい？」**幼児**「楽しかったなって気持ち」**幼児**「すごいなって気持ち」**教師**「そのような気持ちになってもらえるように，みんなはどうしようか？」**幼児**「うさぎは，大縄跳び練習する」**教師**「いいね，うさぎグループは縄飛びの練習を頑張るそうです。それぞれのグループに分かれて，話し合ってみましょう」

グループでの話し合い

Y 男「みんなで協力してバナナ運ぼう」**教師**「どんな風に運ぶのかな？」**S 男**「重たいふりして運ぼうぜ」※ 実際に大きなバナナをみんなで運ぶ。　**他のグループの子**「全然，軽そうに見えるよ」**R 男**「みんな，足曲げてもとうぜ」**教師**「いいね，もっと重そうに見せるにはどうしたらいいかな？」**K 男**「分かった，重たい顔しよう」**みんな**「いいね」

サルグループ目標

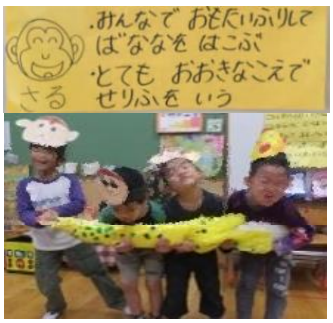


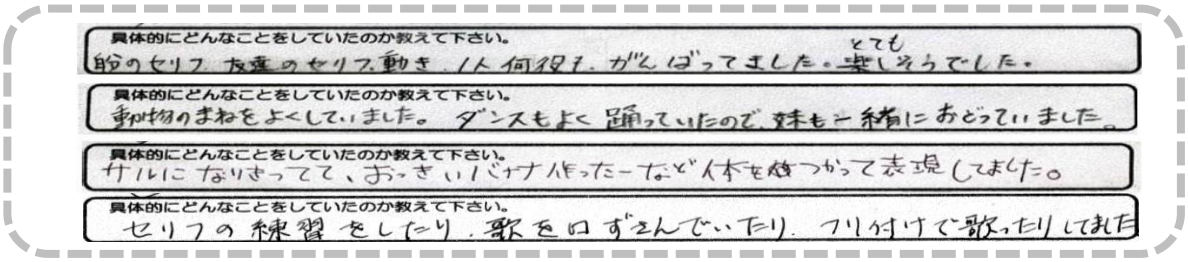
写真 35　重たいバナナを運ぶ様子

(3) 身体を使ったリズム遊びをする

身体を使ったごっこ遊びでは，オルガンでリズムを取り入れ，本山　益子 (2009) が述べている，「動くことによってイメージが膨らむ」ということを考え，ごっこ遊びに展開させていった。幼児の表現したい意欲を受け止め，活動を進めていくと，「夜は静かな曲ひいて」「かけっこの曲」という声が聞こえ，頭の中のイメージを身体で表現したいという意欲が湧き出てきたように感じた。

そこで，「おさるさん，美味しそうにバナナ食べているね」「スキップが上手なうさぎさん」と，動きを言語化していくと，友達と動きを合わせたり，自由に身体で表現したりする姿も見られ，動くごっこ遊びが一気に活動が展開していくことができた。友達とイメージを共有し，一緒に動く中で，心地よさを感じ，表現する楽しさを味わうことができたのではないかと考える。

また，検証保育後の保護者の聞き取り調査では，「ご家庭の遊びの中で，動物ごっこ遊びをしている姿やセリフを言ったりダンスを踊ったりしている様子が見られましたか？」の質問に，保護者から下記のコメントがよせられた。幼稚園で楽しかった，面白かったという心動かされる活動を経験の充実を図ることによって，幼稚園と家庭と連続して遊びが続いていることが読み取れる。


具体的にどんなことをしていたのか教えて下さい。
自分のセリフ，友達のセリフ，動き，1人何役も，がんばってました。とても楽しそうでした。

具体的にどんなことをしていたのか教えて下さい。
動物のまねをよくしていました。ダンスもよく踊っていたので，妹もご一緒におどっていました。

具体的にどんなことをしていたのか教えて下さい。
サルになりきってて，おっきいバナナ作ったーなど体を使って表現してました。

具体的にどんなことをしていたのか教えて下さい。
セリフの練習をしたり，歌を口ずさんでいたり，つり付けで歌ったりしてました

図 9　聞き取り調査

２　具体仮説(2)の検証

劇創りの場において，学級や少人数グループでの活動の中で，友達と思いを伝え合い，思いや考えを共有することができる援助を工夫することで,友達と思いや考えを共有し動きや言葉で表現することを楽しめる子が育つであろう。

具体仮説(2)では，「友達と思いや考えを共有し表現できる」ことについて，学級や少人数グループでの活動の様子，幼児の変容や聞き取り調査の分析などから検証していく。

(1)　思いや考えを共有し表現する

思いや考えを共有することができるように，自分の考えを相手に伝えたり，相手の思いに気付いたり，気持ちの調節ができるような場面をつくっていった。劇のお話づくりでは，一人一人の思いや考えを相手に伝えることができるように，少人数グループでの話し合いを取り入れた。そこで，自分と違った意見の子がいることに気付いたり，困ったことを解決するにはどうしたらいいのか仲間と考えたりできるような援助を行っていった。その結果，話し合いの中で自分の思いを主張することが苦手だった子も,「こんなポーズはどう？」と友達に伝え「そうだね」と友達が自分の思いを受け入れてくれたことで，自分の思いを伝えることができることができるようになってきた。

神谷栄司（1999）は,「イメージは絵である」と述べている。友達と思いや考えを共有する環境の工夫として，話の内容を紙芝居にして読み聞かせを行い，紙芝居を学級に掲示し，視覚から入るイメージを深めていけるように環境を整えた。すると,掲示を見て友達とセリフを交わし合ったり，他のグループの子のセリフまで覚えたりする姿がよく見られた。その姿から，友達と思いを共有するきっかけづくりになったと考えられる。

頭の中のイメージをセリフや動きのやり取りへとつなげていけるよう，話し合いの充実を図っていった。その中で,「○○と，○○○は二人跳び上手」「大きな声でかっこいいね」と相手を認める声も多く聞こえるようになってきた。振り返りの場では，そのことを話題にして「何で上手なのかな？」「どこがかっこいいかな？」と発問し,みんなで思いを共感し深めていけるようにしていった。すると，友達のやり方を真似して表現したりする姿も見られるようになってきた。思いを共有することは，動きや言葉で表現する活動を活性化させると考えられる。

図 10　紙芝居表紙

場面での動きを絵で表現

セリフのやり取りを文字で表す

図 11　紙芝居とセリフを掲示

図 12　紙芝居の内容

(2)　友達と協力する

ごっこ遊び，劇遊びでは，友達と同じ動きをしたり一人一人がそれぞれの自己表現を楽しんだりする姿が見られた。しかし，劇創りでグループに分かれての活動では，友達とセリフを交わし合って練習しているのにかかわらず，隣のグループの演技が気になり飛び出したり，自分のやりたいことを優先させて友達を困らせたりする姿も見られるようになってきた。その姿も受け止めながら，グループの友達が困っている様子に気付けるような援助をしていった。また，意図的に友達と協力しないとうまく表現できない場面をつくり，どうしたらいいのか考えることができるような環境を設定していった。

振り返りの場で，繰り返し話し合いをもつことで，友達と一緒に活動する楽しさや，仲間と協力することで劇創りが続けられることにも気付いていけるようになっていった。また，うまく練習ができたグループに，なぜうまくできたのか，そのときの気持ちはどんな気持ちだったのか聞いてみたりすることで，一人一人が協力することの必要性を感じ，仲間と一緒に取り組む楽しさを味わうことができたと考えられる。

(3) 伝え合う喜びを味わう（C男の変容）

C男の様子（１０月）
いろいろな活動の中で，友達と一緒に遊びを楽しみたいという思いはあるが，なかなか友達の輪に入れず遊びを傍観したり，友達に遊びに誘われるまで一人遊びをしたりすることが多い。また，自分の思いを言葉で表現することが苦手である。

みんながごっこ遊びを楽しむ中で，考え込み，その場から動かないC男。

１回目の検証保育
教師「Cさんは，ヘビになりたかったの？」
C男「うん，ヘビは包まるわけ，だから何か包まるものないか考えていた」
教師「ヘビは包まるの？」　**C男**「うん」
教師「秋の遠足で動物園に行くでしょ。ヘビもいるかな？」
C男「いるいる」　**教師**「遠足楽しみだね」　**C男**「うん」

C男の姿
ヘビになりたいイメージはあるが，どう表現したらいいのか考え込み動けないC男。

教師の援助
C男に寄り添い，思いを聞いて共感し，安心して思いを言葉にできるような援助をした。

爬虫類館で，頭の中のイメージのヘビを探すC男。

秋の遠足（動物園の爬虫類館にて）
C男「見て，包まっているヘビいた」
教師「本当だ，みんな見て」　**友達**「本当だ，包まっている」
友達「Cが言っていたのは，こういうことだったのか」
C男「そうだよ」**みんな**「すごいね，ヘビ」**C男**「うん」
教師「こんなヘビに変身できる？」**みんな**「できる今度やろう」

C男の姿
自分のイメージが友達に受け止められて，満足気なC男。

教師の援助
他児にも，C男がイメージしていたことを感じ取ることができるような援助をした。

劇創りでは，ヘビはあっちこっちにも首が曲がるということで，片付け名人と決まった。しかし，劇の中で片付けるものがなくて，出番がないと困っている。

劇創り（話の内容を考える過程）
教師「何か，片付けるものないかな？」
K男「分かった，うさぎさん縄飛びしたら片付けないで置いといてもらおう」　**C男**「いい考えだね」
※　早速，うさぎグループにK男と交渉にいく。
K男「うさぎさん，縄飛びしたら，忘れて置いといて」
N子「嫌だ，遊ぶってことは片付けまでだよ」
C男「俺たち，片付けるものがないわけよ」
Ｉ子「嫌だ，自分で片付けるよ」　**K男**「俺たち劇に出られない？」
教師「困ったね，何か片付けるものないかな？」
M子「分かった，忘れているつもりしればいいんじゃない？」
教師「それ，いい考えだね。いつもはしっかり片付けまでするけれど，忘れたつもりするってこと？」　**M子**「そうそう」
※　几帳面なうさぎグループに，笑みがこぼれる。
うさぎグループ「忘れているつもりするよ」「つ・も・り」
C男「やった，ありがとう」**ヘビグループ**「やった劇に出られる」
教師「よかったねヘビグループさん。うさぎチームさんありがとう。では，忘れたつもりでお願いしますね」
※　話の内容づくりが始まっていった。

教師の援助
互いの思いや考えを伝え合い，相手の気持ちに気付けるように配慮した。また，気持ちの調節をしていくことができるような言葉かけをしていった。

C男の姿
グループのK男と，考えたことを一緒に伝え，それが受け入れられた経験によって，伝え合う喜びを味わうことへとつながった。

C男の姿
友達と思いを伝え合う喜びを味わったことで，意欲が高まり，友達と協力して活動に取り組む姿が見られるようになってきた。

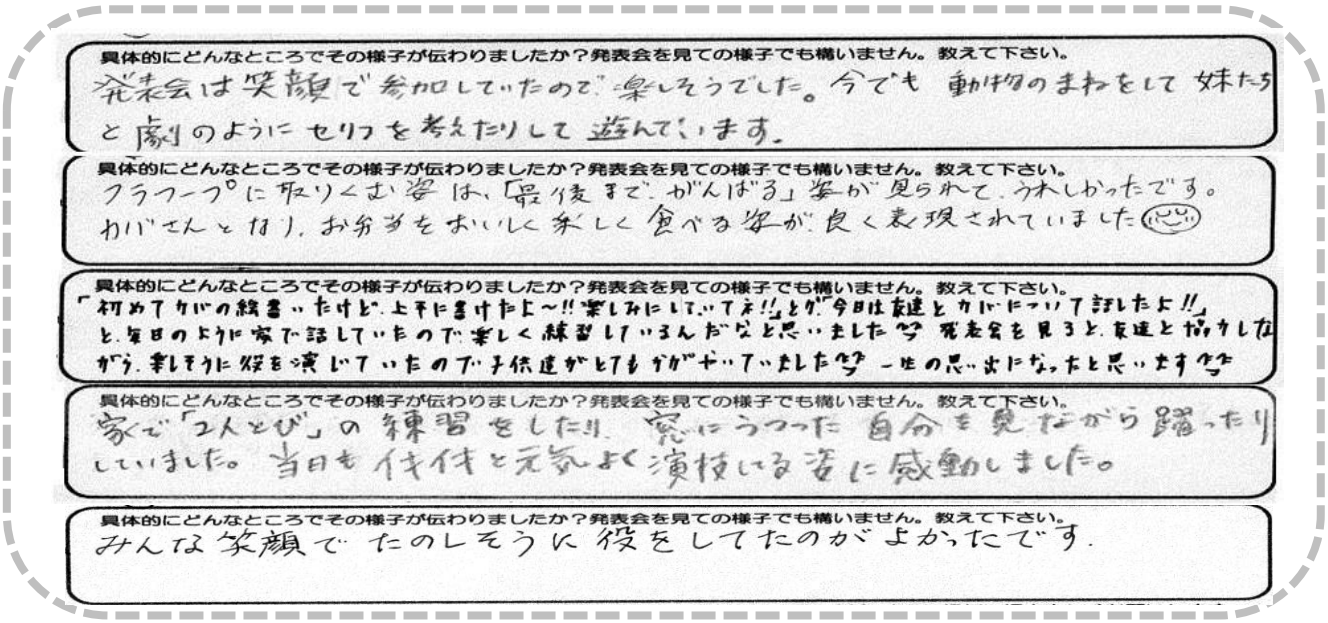
C男の行動と，内面理解に努めた保育を展開していくことで，友達と思いを伝え合う楽しさを味わい，劇創りに意欲的に取り組む姿が見られるようになったと考える。

また，発表会後の保護者から「お家で，ヘビはこんなって動いて出てくると，身振り手振り考えながら話していました。伝えたいという思いを強く感じましたよ。いつもは，話を聞かれて話すタイプだったんですけどね」という声も聞かれ，友達と思いを伝え合う経験を重ねることで，保護者に思いを伝えるようになったC男の心の動きを感じ取ることもできた。

C男の変容（１２月）
自分の思いを友達に伝えようと，自分から友達に話しかけ会話を楽しむ姿が見られるようになってきた。また，友達と思いを共感していく中で，自分のアイディアを友達に提案したり，困った場面で折り合いの気持ちを付けようとしたりする姿が見られるようになった。

３　保護者の聞き取り調査

生活発表会後の保護者による聞き取り調査で，「生活発表会の劇（きらきらジャングル幼稚園）の練習から発表会まで，楽しんで取り組むことができましたか？」の質問に，下記のようなコメントが寄せられた。家庭でも生活発表会までの過程を楽しんでいる姿から，劇遊びは，イメージを動きや言葉で表現することを楽しむには効果的であることが考えられる。


具体的にどんなところでその様子が伝わりましたか？発表会を見ての様子でも構いません。教えて下さい。
発表会は笑顔で参加していたので楽しそうでした。今でも動物のまねをして妹たちと劇のようにセリフを考えたりして遊んでいます。

具体的にどんなところでその様子が伝わりましたか？発表会を見ての様子でも構いません。教えて下さい。
フラフープに取りくむ姿は、「最後まで、がんばる」姿が見られて、うれしかったです。
わバさんとなり、お弁当をおいしく楽しく食べる姿が良く表現されていました

具体的にどんなところでその様子が伝わりましたか？発表会を見ての様子でも構いません。教えて下さい。
「初めてカバの絵書いたけど、上手に書けたよ～!!楽しみにしていて～!!」とか「今日は友達とカバについて話したよ!!」と、毎日のように家で話していたので楽しく練習しているんだなと思いました。発表会を見ると、友達と協力しながら、楽しそうに役を演じていたので子供達がとてもかがやいていました。一生の思い出になったと思います。

具体的にどんなところでその様子が伝わりましたか？発表会を見ての様子でも構いません。教えて下さい。
家で「コンとび」の練習をしたり、窓にうつった自分を見ながら踊ったりしていました。当日も伸伸と元気よく演技する姿に感動しました。

具体的にどんなところでその様子が伝わりましたか？発表会を見ての様子でも構いません。教えて下さい。
みんな笑顔でたのしそうに役をしてたのがよかったです。

図 10　聞き取り調査

Ⅸ　研究の成果と課題

１　成果

(1)　ごっこ遊びの場において，絵本やペープサートを活用してイメージを膨らませていく中で，教師が思いや考えを引き出す発問をしていくことで，やってみたいという意欲が高まり，イメージしたことを自分なりに身体で表現することを楽しむことができたと考える。

(2)　劇創りの場において，友達と思いや考えを共有する話し合いの工夫をすることで，思いを伝え合う楽しさを味わい，園生活の中で友達に思いを伝えようとする態度が育ってきた。

(3)　ごっこ遊び，劇遊び，劇創りという流れで指導計画を立て検証を展開していったことで，自分の思いを表現することから，仲間と共に思いや考えを共有し表現していくことへとつながり，友達と協力して取り組む中で互いに認め合う姿が見られるようになった。

２　課題

(1)　個々の実態を把握して検証保育へと取り組んでいったが，気になる子への援助や言葉かけが十分でなかった。今後も幼児理解に努め，個々に応じた援助の見直しをしていく必要がある。

(2)　活動の中で，幼児がイメージを広げていけるような発問をしていったが，思考を深めていけるような発問が足りなかった。発問の仕方をさらに工夫していく。

(3)　友達と思いを共有するには，自分の思いを伝えたり，相手の思いに気付いたり，時には気持ちの折り合いを付けるなどの経験が必要である。今後も，園生活の中においてそのような場面を捉え，個々に合った継続的な指導を深めていく必要がある。

＜主な参考文献・引用文献＞

・文部科学省　平成 20 年 10 月　『幼稚園教育要領解説』　フレーベル館
・阿部明子・竹林美紀子　2000　『表現』　東京書籍
・西洋子・本山益子・吉川京子　2003　『子ども・からだ・表現』　市村出版
・中野由美子・神戸洋子　2010　『言葉』　一藝社
・神谷栄司　1999　『幼児のイメージ力を育てる』　三学出版
・田川浩三　2004　『ごっこ・劇遊び・劇創りの楽しさ』　かもがわ出版
・菊池省三　2011　『話し合い活動を必ず成功させるファシリテーションのワザ』　学事出版
・加藤辰雄　2008　『誰でも成功する発問のしかた』　学陽書房